

イノベーション・ネットワークあおり連携アドバイザー養成講座 開催結果

7月16、17日、9月2日の日程で開催いたしました。

参加者は全日程で39名、全過程修了者は30名となりました。

参加した皆様からは、産学官金連携の必要性やコーディネーターの重要性が理解できた、同業者との関わりが持てた、との声が聞かれました。

今回の研修の内容を来年度の開催に活かしていきたいと思えます。

【開催概要】

イノベーション・ネットワークあおりでは、そのネットワーク力を活かし、また、地域密着型金融の一環として、企業と関わり深い金融機関をはじめとする認定支援機関の支援強化を図り、イノベーション・ネットワークあおり連携アドバイザーとして、企業と大学、専門機関の橋渡し役となる人材を養成し、多様な力を結集した戦略的な取組による新たなイノベーションの早期創出を図るものである。

【プログラム】

●平成26年7月16日（水）

・<講義①>

帯広信用金庫 地域経済振興部 田中一郎 氏

題目「コーディネーターの経験と地域に根ざしたコーディネーション」

・<講義&グループ討論>

山形大学大学院 理工学研究科 野長瀬 裕二 教授

仮題「グループ討論に向けて～中小企業の新分野進出をどう支援するか～」



●7月17日（木）

・<グループ討論内容発表>

<講義>

高知工科大学地域連携機構 社会連携専門監 佐藤暢 氏

題目「事例に学ぶ：産学官連携コーディネーターに求められる「構想力」とは

・<講義①>

(一財)浅間リサーチエクステンションセンター(AREC)専務理事 岡田基幸 氏

題目「地方都市における中小企業支援機関やコーディネータの役割～年会費5万円の産学連携組織に190社が集う～」

●9月2日（火）

・<講義②>

21 あおり産業総合支援センター ものづくり推進コーディネーター 岡部敏弘氏

題目「地域資源を生かした未来設計」

・<講義>

21 あおもり産業総合支援センター ものづくり推進サポーター 佐々木 進 氏

題目「職業能力開発と地域産業支援」

・<講義③>

山形大学国際事業化研究センター 副センター長 小野浩幸 氏

題目「地域企業と金融機関の Win-Win（共存共栄）を目指して」

・<講義④>

（一社）青森県発明協会 知的財産支援コーディネーター 今野 峰子 氏

題目「企業経営における知的財産の活用」

・<講義⑤>

青森県商工労働部新産業創造課長 鈴木 章文

題目「政府の産学官連携の取組について～現状を踏まえて我々が出来ること～」

【参加機関】

青森銀行/みちのく銀行/青い森信用金庫/青森県信用組合/東奥信用金庫/熊野雄平税理士事務所/三八城税理士法人/薬師山正人税理士事務所/株式会社若山経営/公益財団法人 21 あおもり産業総合支援センター/青森市/八戸市

【講義内容】

帯広信用金庫 地域経済振興部 田中一郎氏

「金」の立場から、企業との連携の事例についてと、産学官金連携の取り組みについて説明していただきました。また、補助金申請資料作成の際に気をつけている点など講義していただきました。



山形大学大学院 理工学研究科 野長瀬 裕二 教授

グループ討論前に、中小企業の新分野進出に関する支援について、成功のポイント等を説明していただきました。また、グループ討論で行う課題分析の手法について講義していただきました。

グループ討論

青森県の中小企業の新分野進出について、①ものづくり産業分野と②食品産業分野の2つの観点からテーマ討論を行いました。所属に関係なく5グループに分かれて討論を行い、最後に全員の前で発表しました。



高知工科大学地域連携機構 社会連携専門監 佐藤暢 氏

高知工科大学と中小企業の連携の事例について連携とその後の過程についての紹介と、コーディネーターに求められる「構想力」について講義していただきました。



(一財)浅間リサーチエクステンションセンター(AREC)専務理事 岡田基幸 氏

岡田先生が発足に立ち会われた AREC の特徴や活動内容について説明いただきました。また、コーディネーターされた事例についても詳しくお話いただきました。コーディネーターとして、事業化に携わるための意識等を教えていただきました。

21 あおもり産業総合支援センター ものづくり推進コーディネーター 岡部敏弘氏

国の補助事業についてと地域資源を活用について説明していただきました。また、県産業技術センターでの研究内容について、地域資源の活用を踏まえて講義していただきました。



21 あおもり産業総合支援センター ものづくり推進サポーター 佐々木 進 氏

職業能力開発大学校についての活動（研究）内容と、企業と連携した事例を説明していただきました。

山形大学国際事業化研究センター 副センター長 小野浩幸 氏
「学」と「金」の連携について、山形大学の取組を中心に説明して
いただきました。その中でも、金融機関の役割について分かりやすく説
明していただきました。



(一社) 青森県発明協会 知的財産支援コーディネーター
今野 峰子 氏

企業の知的財産活用について、基礎的な知識や、企業での活
用実例を交えて説明していただきました。また、特許の出願方法
など、実践的に活用できることについても講義していただきました。

青森県商工労働部新産業創造課長 鈴木 章文

産学連携について国の連携の取組及び制度について説明い
たしました。また、その取り組みを踏まえて青森県の関係機関
でできることを考えました。



修了証授与式

青森県商工労働部次長より挨拶の後、修了証授与式を行いました。
全修了証授与者は30名となりました。



アンケート結果

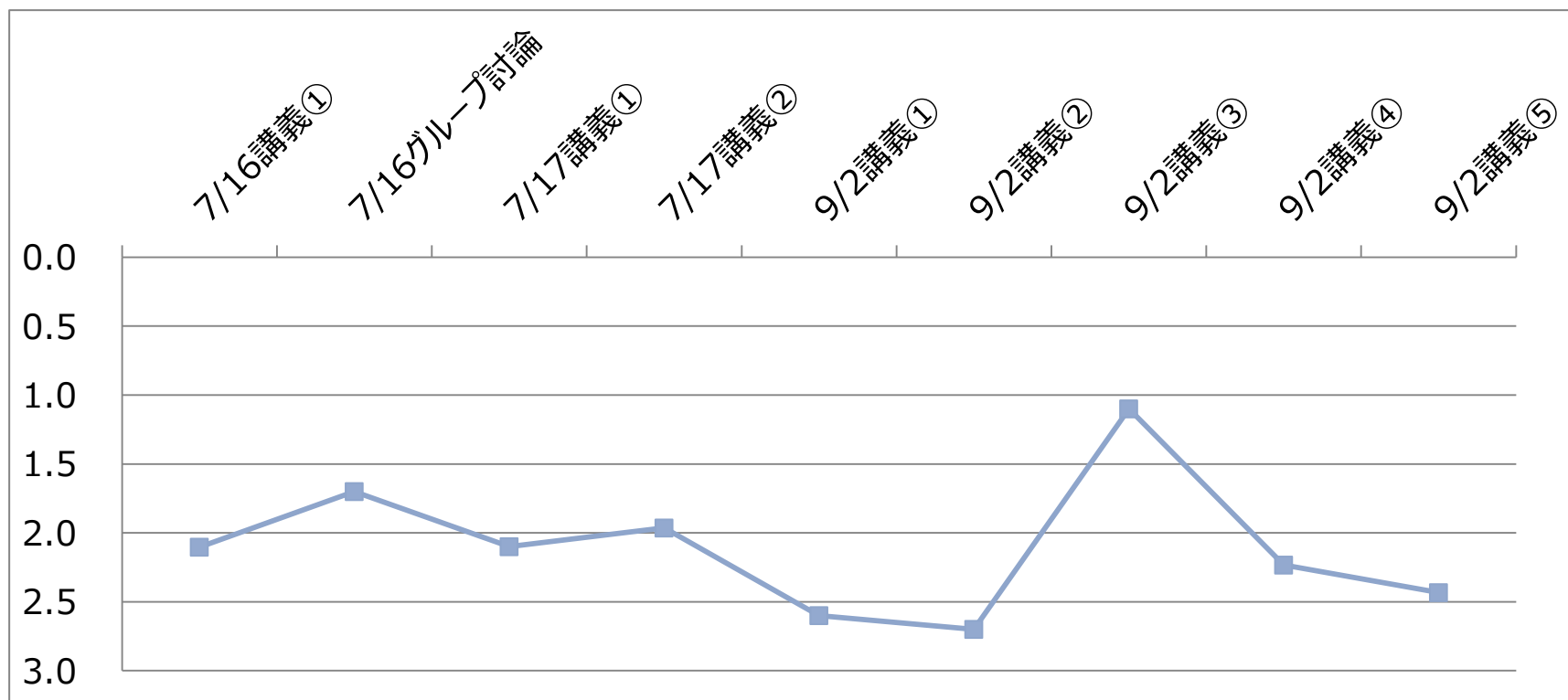
全三回のアンケート結果についてそれぞれの講義等の平均点を集計いたしました。

評価段階は、1（大変有意義だった）、2（有意義だった）、3（どちらともいえない）、4（不満足・もの足りない）、5（大変不満足）であり、平均の点数が低いほど高い評価となります。

結果、全ての講義で3（どちらともいえない）より高い評価いただきました。

その他、自由意見も踏まえて今後の開催の参考にさせていただきます。

<各講義の平均点>



【自由意見】

田中先生

- ・帯広信用金庫における地域イノベーションへの専門部署による深い関わり方に感銘した。
- ・農林水産業のウェイトが大きい本県は農業の付加価値を高めることが重要。農業経営体等への支援に補助金を有効活用し、利益メリットが図られると思う。

7/16 野長瀬先生 (グループ討論)

- ・講義自体は難易度が高く感じたが、新分野進出には人的ネットワークの重要性を感じた。
- ・討論のための時間が少なかった。

佐藤先生

- ・希求を形にするためのコーディネーターの役割を認識した。
- ・「構想力」部分での具体的な事例に基いた説明があり、理解度も高く有意義だった。

岡田先生

- ・ARECの支援事例について説明が分かりやすく、取引先にも応用できそうな点も考えられたため。
- ・学生を集合させる手法は面白い。青森も地元企業への就職に力を入れているようだが、まじめすぎて面白くない。

岡部講師

- ・青森ヒバやリンゴなど地域資源の素材としての可能性の深さを感じた。地域資源の再発見が必要。
- ・科学的な専門用語が多く分かりにくかった。

佐々木講師

- ・ものづくりに関する人材育成事業や技術講座があり、支援を行っていることが分かった。
- ・アイデアを具現化するためには、ということでは興味深いが、金融機関としてどうしていくか等にはつなげにくい。

小野講師

- ・出席者の人選からも、金融機関従事者が多いことから専門的な事例よりも、役割の説明があり良かった。
- ・地域社会との共存共栄を目指し、ビジネスモデルの確立・進化が必要であるという気付きを与えていただいた。

今野講師

- ・知的財産の必要性について認識できた。
- ・普段かかわりが少ない分勉強になった。

鈴木講師

- ・産学官金の重要性について再認識することになる。連携のなんたるかを逆の立場でひも解くことで見地が変わり情報の取り込みが図られた。
- ・講座の最初にやるべき講義だったのでは。

講座内容を今後業務にどのように取り入れるか

- ・現在のビジネスの中で繋がる部分が多々あった。人とつながりが大きいため、業務の推進に繋がる。
- ・新事業の審査に対する目利きや、ビジネスモデルの事例・提案による経営改善アドバイス。
- ・地域資源が豊富であるが、うまく活用できていない。今後は新分野進出を検討している企業に補助金、知財の情報提供と、産学官金連携を積極的に行っていきたい。

今後、講座や研修会等で取り上げてほしいテーマ

- ・研究施設を全く知らなかった。県内にどのような施設があったり、どのような研究者がいるか等教えてほしい。
- ・成功事例の紹介のみでなく、金融機関に期待する点、または留意点についての提言がほしい。
- ・県内で活動されている方の講義もあっていいと思う。また、企業サイドの話も聞きたい。
- ・ものづくり企業の技術力の見極めについて。
- ・産業支援に有効な制度（補助金制度）等の利用手段。「産学官金」の「産」の話も聞いてみたい。（成功・失敗までの道のり。）

その他

- ・企業ニーズとイノベーションをリンクするツールが少なく、行政レベルでの窓口を作してほしい。
- ・質問にあった、補助金で賄いきれない部分のアプローチを県や市の「官」が積極的に手掛けてほしい。
- ・アドバイザーではなくコーディネーター養成講座だと思う。⇒要検討
- ・情報連携の具体的なツールや仕組みが確立され、使いやすい環境になれば、より多くの情報が集まり、参画する人、企業、団体も多くなると思う。
- ・適正な休憩時間が必要。特に座学の場合には聞き手のコンディションも悪化する。

16、17日の講座 全体について

- ・金融機関に勤め、企業と大学、専門機関の橋渡し役となるべき連携アドバイザーを名乗れるには、従来知識も当然であるが、幅広い分野への知識・関心・興味の上に成立するものである。
- ・日常業務多忙により新分野進出についてあまり考えたことがなかったが、本講座で経営資源を活用するための産学官金連携の必要性とコーディネーターの役割を認識できた。

9/2の講座全体 について

- ・地域金融機関として、また、認定支援機関として新しい付加価値を生み出すために努力していかなければならないと再認識した。
 - ・産学官金の連携の仕組みは分かったが、動き方についてもよくわからないのでフォローアップセミナーをしてほしい。
 - ・提出するレポートを公表する必要はなかったのでは。⇒企画も突発的だったため来年行うか検討が必要
 - ・全三回の講義では素人では分かり得ない話も多かったため、受講者に合わせたテーマにすべき。
-